

# T R A U M A

## トラウマから考えるアジア・太平洋戦争

### KUNILABO人文学講座

近年よく耳にするようになったトラウマやPTSD（心的外傷後ストレス障害）といった心理学・精神医学分野の用語は、日本社会においては1995年の阪神・淡路大震災と地下鉄サリン事件をきっかけとして広く受容されるようになったと言われていますが、もともと近現代の戦争と非常に密接な関係をもった用語でした。

戦争とトラウマの歴史においてまず大きな画期となったのは、第一次世界大戦（1914～18）でした。第一次世界大戦は、戦争神経症（いわゆるシェルショック）の患者が多数発生したことから、長期に及ぶ大量殺戮戦争が人間の精神に及ぼす影響に大きな注目が集まりました。

この講座では、様々な軍事・医療アーカイブズを用いて、トラウマという観点からアジア・太平洋戦争が兵士と家族、医療・福祉、地域、社会のジェンダー秩序に及ぼした影響などを考えていく予定です。

講師：中村江里（なかむら えり）

一橋大学大学院社会学研究科特任講師。専門は日本近現代史。

日時 第2水曜日（4/11, 5/9, 6/13, 7/11） 19:15～:20:45  
場所 スペース・コウヨウ（国立駅南口より300m）  
料金 一般8,000円・学生4,000円（全4回）

お申込み ホームページより受け付けています。  
[www.kuniken.org](http://www.kuniken.org)



お問い合わせ NPO法人国立人文研究所  
Email: [kunilabo@kuniken.org](mailto:kunilabo@kuniken.org)  
Tel: 050-5276-2662

